

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成25年9月5日(2013.9.5)

【公表番号】特表2013-502206(P2013-502206A)

【公表日】平成25年1月24日(2013.1.24)

【年通号数】公開・登録公報2013-004

【出願番号】特願2012-525057(P2012-525057)

【国際特許分類】

C 1 2 N 7/02 (2006.01)

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 7/02

C 1 2 Q 1/68 A

【手続補正書】

【提出日】平成25年7月16日(2013.7.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ウイルスを複合試料から単離する方法であって、以下の工程：

- a) 複合試料を提供すること、
 - b) 前記試料を、少なくとも二価の塩化物塩および／またはイオン液体を含む抽出溶液と共にインキュベートすること、
 - c) 前記ウイルスを工程 b) の混合物から単離すること
- を含む、前記方法。

【請求項 2】

複合試料が、食物または臨床試料であることを特徴とする、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

抽出溶液が、M g C l 2 を 0 . 5 ~ 6 M の濃度で含むことを特徴とする、請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 4】

工程 c) において、ウイルスが混合物から遠心分離および／または沈殿によって単離されることを特徴とする、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 5】

工程 b) の前に、試料に規定量の対照ウイルスを添加することを特徴とする、請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 6】

試料を、少なくとも 1 種のバイオポリマー分解酵素とともにさらにインキュベートすることを特徴とする、請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 7】

さらなる工程 d) において、細胞計数によって、P C R 法によって、レクチンを用いることによって、あるいはウイルスに選択的に結合する抗体またはタンパク質または前記ウイルス粒子の表面構造に向けられたアプタマーを用いる方法によって、ウイルスを分析することを特徴とする、請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 8】

工程 c) において、ウイルスおよび細胞壁に囲まれている細胞を、並行したまたは後続する単離工程により単離することを特徴とする、請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 9】

工程 c) において、少なくとも 2 つの後続する遠心分離工程を行うことを特徴とする、請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】

工程 c) で単離されるウイルスが、10 ~ 100 nm の直径を有することを特徴とする、請求項 1 ~ 9 のいずれか一項に記載の方法。